

に何か反映されるような形はあるのでしょうか。その辺について御説明いただければと思います。

■前田室長 いろいろと御意見をいただいたり、事例を発表していただいたりしたものを事例集という形でまとめて、例えば今年度3回やったときの中間的なまとめとか、来年度また何回か御意見をいただいた後のまとめとか、適宜いろいろと情報発信をしていきたいと思えます。

まさに今は、各都道府県でがん対策推進計画が、今、47都道府県のうち44県でつくられておまして、その中にもがん検診50%の目標値を立てられたり、宮城県では70%という目標値を立てられたりされておりますけれども、そういった各都道府県が行う事業にきちんと利用していただくというふうに、県に対してそういう事例集を渡していく。県からまた各市町村に渡していくという、自治体を使った情報提供で、そういった行政の事業に反映させて行くために使っていただくということが、まず1つあると思えます。

それから、そういった推進計画に基づいて行っていただく事業については、国からも補助を出してございますので、各都道府県に有効に活用していただくということで、先ほど1億7,000万程度が普及啓発の事業費ということでございましたが、各都道府県がその地域の特性に応じて行っていただく、自由な発想でやっていただくがん対策事業といったものについても補助金は出しておりますが、その中で普及啓発の事業をどんどんと各県で企画していただくことについても、厚生労働省として予算を確保いたしてございますので、行政ベースではそういう形で今、考えてございます。

■中川座長 そういう点では、都道府県の啓発の活動の取組みの御報告をこの会でしていただいて、それにやはりこちらからコメントしていくことも必要かもしれないですね。

ほかにございますか。どうぞ。

■若尾委員 もう一つ。今、山田さんにすばらしい歌声を披露していただいたんですけれども、本当、我々にとってみれば、そういう有名な方がこういう活動に加わっていただくというのは非常に魅力なんです。多くの方を巻き込むために、混声合唱団の方が、少しずつでも、例えば病院とかいんなところで歌っていただくとか、それでがんはこういう病気で、こんな注意が必要ですというのも提示させていただいたり。

■中川座長 先生、私はやはり病院以外の場も大事だと思います。がんの患者さんは、やはり勉強するんですね。そうではない、一般の方たちに向かっても、是非。

■若尾委員 そうですね。一般の人が集まる場所ですね。

そういう活動を本当に是非、これから現実にできればいいなと考えているんですけれども、やはりそこで1つ止まってしまうのは、そういう方をお呼びするのは、非常にお金がかかってしまうとか、なかなかプロダクションとの交渉とかが大変だということが頭に浮かんでしまうんです。ボランティアで御協力いただける方というのは、実際にいらっしゃるのでしょうか。

■山田委員 46人です。

■若尾委員 46人はボランティアで歌を歌ったり、実際にスケジュールが合えば、いろんなところに出向いて行くんですか。

■山田委員 そうです。

■若尾委員 それはすばらしいですね。

■山田委員 大変ですけどもね。

■中川座長 事務所の方が後ろにおられますけれども、全くOKですか。

■山田委員 これは事務所と関係なくやっていることなので、非常にづらいところですけども、例えば鳥越俊太郎、倍賞千恵子、西田ひかるなどの車のナンバーから、スケジュールまで全部把握しておるのは私です。事務局がありませんので、私が譜面をコピーし、手書きでやり、電話をして集めるということです。みんな飛行機に乗ったり、タクシーで乗り付けたりなどして、自分たちで来るということです。ギャラはありません。ときどきお車代というのが出るので、それを貯めておいて、それをまた寄附するということを行っています。

■中川座長 感動しました。

衛藤さん、どうぞ。

■衛藤委員 山田さんの歌を聞いて、いろいろ考えるところがありましたけれども、歌詞の中にも人と人がつながっているという言葉が出てきて、がんに関する普及というのを考えていくと、結局子どもたちなり人々に命のことを考えてもらう機会を持ってもらうことが大事だろうと思います。

学校教育の中では、道徳だとか、そういうところまで広げて考える必要があろうかと思えますし、地域では、例えば私が住んでいる埼玉県和光市というところでは、市役所で多分今ごろのシーズンだと思いますが、「健康まつり」というものがあります。ここでいろいろ健康に関する話題でいろんなイベントがあったり、屋台が出たりします。そういう雰囲気の中で今のような歌が披露されたり、あそこで命を考える機会を持つとか、そういった日常の普通の生活の中で、そんなに深刻にならずに明るい雰囲気の中で考える場をつくっていくことも意味があるのかなと思いました。感想です。

■中川座長 そうですね。全くおっしゃるとおりですよ。

それはCD化されるんでしょう。

■山田委員 多分これはつくっていくと思います。

この会を4月につくりまして、コンサートの方は、月に1回ぐらいずつ、ホールですとか、ホテルでもやりましたし、この間はミッドタウンで6,000人ぐらいの外で歌うとか、メンバーには『もののけ姫』などを歌う米良美一もおりますし、黒柳徹子もいますし、テノール歌手の錦織健もいますし、いろんなジャンルの方がいますので、是非何かあれば言っていただければ、非常にみんなやる気は満々です。

■中川座長 その収益の一部ががん対策になると更によくて、それで予算が随分浮いてなんてことになると、みんなが喜ぶますね。

もう時間がないのですが、塩見さん、今後のことに何かコメント等ございますか。

■塩見委員 私は、この会の最終形といいますか、最終目標といいますか、どの辺を落しどころにするのか、まだ不明なんですよ。

■中川座長 そうですね。

■塩見委員 まあ、今日は1回目だから、ここではっきりした道筋が出るわけではないんですが、例えば普及啓発の手法をいろんなアイデア、提案をいただきながらまとめて事例集のようなものをつくるのか、あるいは啓発のための事業実施をするのか。例えば先ほど山田さんもおっしゃったようなタレントも動員して、いろんなイベントを実施展開していくのか、あるいは都道府県に啓発のアドバイスをしていくのか、また国に普及啓発のための予算を取ってもらうための圧力団体となるのか、いろいろ考えられるんですが。

■中川座長 塩見さん、それは全部必要だと思いますよ。それがすべて実現するかどうかはわからないけれども、それはすべてやっていくべきだと思います。

■塩見委員 そうですね。第2回の会議に向けて準備するとき、予算 1.7 億円の範囲で考えなさいというのか、あるいは企業からもお金を出していただいてもっと大きな事業を考えていくのか。我々の協会なども、企業の寄附が7割を占めています。ですから、企業から寄附をいただいて、それを基に考えれば、もう少し大きいこともできますね。

■中川座長 それは一応、先ほどの予算の説明の中でもあったような気がしますよ。

■塩見委員 企業連携という説明がありましたね。それは資金も提供していただくことも前提に考えるんでしょうね。今後、どの辺まで私たちが考えていけばいいのか。単にいろんな意見を聞いてアドバイスするだけでは、私は済まないと思います。

■中川座長 そうです。今、おっしゃった4つをまず提案として出す。そのために、21 年はちょっと間に合うかどうかわかりませんが、22 年度の予算においても、そこはやはり厚生労働省にも考えていただくことは必要かもしれませんね。

■塩見委員 まだカオスのような状態ですけども、それは2回目以降に下げて検討すべきということですかね。

■中川座長 でも、今、落としどころがわかっていたらね、議論は必要ありませんから。

■塩見委員 落としどころはまだまだ議論する必要がないのかもしれないですね。

■中川座長 そういう点では、割と自由な形で議論を進めたいとおもいます。ただ、それがすべて実現するかはまだわからないということもあると思います。

さて、それでは、今後の事務的な御連絡等がもしありましたら、お願いします。

■前田室長 それでは、本日、御議論、御紹介いただきました内容につきましては、議事録を作成いたしまして、厚生労働省ホームページに公開をさせていただくこととなります。

議事録の案ができましたら、メンバーの皆様にご確認をお願いしたいと存じますので、どうぞよろしくお願いいたします。

また、次回の開催につきましては、先ほども申しましたが、年内の開催を目指したいと思っておりますので、また日程調整をさせていただきます。先ほど少し申し上げましたが、諸外国の事例ですとか、地方自体の事例、企業における取組みなどをオブザーバーをお呼びして御発表いただき、皆様に御議論いただく予定でございます。

また、メンバーの皆様からも、本日の中川座長、若尾さん、衛藤さんのように資料を使って御説明をいただければ光栄でございます。

以上でございます。

■中川座長 それでは、もしほかになれば、第1回の懇談会を終了させていただきます。  
どうもありがとうございました。

---

(第2回へ続く)